

つながりの中でくらす  
望まれた人として生きる  
自分らしく生きていく



No. 8

2006年4月発行

## 障害児支援・不登校児支援

### シンポジウム「親ってなに？子育てってなに？」

2006年2月4日(土) 13:30~16:30

大阪市立城北市民学習センター 講堂

参加者 14名(障害児の親6名、不登校児の親3名、  
障害当事者2名(リレートークのみ参加)、その他支援者等3名)  
ボランティア 5名(大学生3名、その他2名)

主催：NPO法人地域生活サポートネットほうぶ

後援：大阪市教育委員会、旭区役所、旭区社会福祉協議会、  
トモノス旭、大阪市生江人権協会、大阪市両国人権協会、  
旭区青少年指導員連絡協議会、旭区子供会育成連合協議会、  
旭区民生委員協議会、旭区PTA協議会、

たんぽぽ倶楽部、地域で共に生きる教育と生活をすすめる会

協力：サークル虹、NPO法人淡路プラッツ、NPO法人あるる、  
いくの障害児(者)家族地域支援センターほっと

私達「ほうぶ」スタッフは子育て支援や障害児支援・不登校児支援の活動に取り組む中で、子育てにしんどさを抱えている親がたくさんいることを感じてきました。今回、「障害」と「不登校」を切り口に、親の立場、子どもの立場で語り合うシンポジウムを開催しました。

障害児の親、障害当事者、元不登校児の親、不登校体験者、それぞれが思いを語り合い、その後、会場の参加者が2グループに分かれて意見交換をしました。残念ながら、参加者は少なかったのですが、シンポジストの語りたいたい思いはたくさんあって、参加された方々もいろいろな思いをもって来てくださり、ずっしりとした内容となって予定時間を延長して終了しました。

子育てに悩みはつきものです。ましてや、「障害」や「不登校」という課題があればなおさらか

もしれません。でも、だからこそ見えてくる大切なことがあるのではないのでしょうか。子育ての中で、「幸せの形っていろいろなのだ」と気づいたところから、ちょっと楽になるのかもかもしれません。そして次に、社会と向き合うときに必要となるエネルギーは、人とつながっていくことで得られるのだと感じています。

#### 参加者の感想から

##### リレートークの感想

- ・シンポジストのお話をもっと聴いていたい程、熱いものを感じた。
- ・障害・不登校について、自分の周辺で深く関わる機会がなく、色々と分からないことが多かったので、今回、話を聴くことで少しでも理解を深めることができよかった。
- ・立場の違う方のお話を聞かせていただいてよかった。もっと聞きたかった。



##### ディスカッションの感想

- ・子どもと辛い思いを共有して、私なりにサポートして行きたいと思った。
- ・障害・不登校とも共通するところがあり、これからもこういう機会を増やして欲しい。
- ・不登校体験者の人の話が良かった（障害児の親）。
- ・いろいろな立場の人と話せてよかった。
- ・親の立場としての悩みと子どもの立場との違いに気づいて、これから先の生活を考えていくことが大切だと思った。
- ・メモを取るのに必死で、聞いた内容をゆっくり考慮できていませんが、いろいろと親の話を聞く事ができたので、勉強になった。

#### <シンポジストの言葉から・最後に（抜粋）>

**障害児の親から** 私は娘や息子の子育てを通して、自分の人生が2通りというか、違った人生を生きれたというふうに思っています。確かにしんどいことはいっぱいあるんですけども、そのことを受けとめてきたから、今そういうふうに思えるかな。

**障害当事者から** 何か恥ずかしいところがあって親との関係というのを考えることを持たなかった自分がいたんですけども、こういう機会を与えられて、やっぱり親って大きなもんやと思うし、切って離せないものだと思うし、僕自身も勉強になりました。

**元不登校児の親から** 親だからこそできたこと、親にしかできないことっていうのが、この間たくさんあったと思います。（中略）本当に不登校の子に出会ったからこそ、私は子どもの大切さを実感しましたし、これから先も、まだまだ落ち込んだり悩んだり、子どもとこれからも付き合っていける、そんな親子関係になれたなあということをむしろ感謝しています。

不登校体験者から 他の方の話を聞いていたら、もっと時間があれば「こういうところを突っ込んで聞いてみたい」とか、それぞれ乗り越えてこられて、乗り越えつつも今も続いている部分があるのかな、という印象です。今回のテーマが、親の立場、子どもの立場で、立場が違くと見えてくる視点が違うものなのかなと、改めて思いました。

## 「あさひ不登校ねっと」の取り組みから(報告)

2006年度、‘ほうぶ’では大阪市民共済会の助成を得て、障害児・不登校児の地域支援の取り組みを行ってきました。不登校児とその家族の支援においては、不登校について考えるネットワーク「あさひ不登校ねっと」(\*)を立ち上げ、毎月、話し合いや勉強会を行なってきました。「不登校」の問題は、学校と家庭だけで解決できるものではありません。旭区内には、2つの青少年会館があり「ほっとスペース事業」を行なっています。また、不登校児の親の会「サークル虹」もあります。当初、それらをつなぎ、家族支援を作り出すことを目的に「あさひ不登校ねっと」での話し合いを始めましたが、話し合いを重ねた結果、「学校」とつながらなければ根本的な問題解決はしないため、地域・学校・家族の連携を目指していくことになりました。

大阪市では各中学校にスクールカウンセラーが置かれていますが、学校と家庭とスクールカウンセラーそれぞれの連携がないことで混乱を招いているケースもあります。学校と家庭の間のパイプ役を「あさひ不登校ねっと」が担うことができるのではないかと思います。今後、「あさひ不登校ねっと」において地域における相談事業やフリースペース事業を行なう機関と親の会が連携しあい、家族をサポートしながら学校とつないでいくことができると考えています。

一方、親への支援を創り出すことや子どもが社会に出て行くステップとなる場を地域に創っていくことも必要です。従来の不登校児支援は、児童に対する支援に重点が置かれており、親に対する支援はカウンセリングと当事者会しかないのが現状です。‘ほうぶ’のNPO法人設立集会のグループワークで、自立生活をする障害者の意見を聴き、子どもに対する見方が変わり、ストレスが減ったという保護者達がいらっしやいました。不登校児と障害児との間に、一見接点はないように思われますが、保護者の「価値観の転換」、あるいは、教育権や、児童の「生きる力」や「人の中に存在する力」を育てることなどは、共通するところではあります。親の抱えるストレスを減らすことが、子どもとの関係にいい影響を与えることが考えられます。そこで、保護者の方々に元気になっていただくため、2月4日にシンポジウムを開催しました(1、2頁)。また、ボランティア活動を通して、親子それぞれが自尊感情ややりがいなどを見つけていくこともできると考え、地域に居場所的なボランティア活動の場を広げたいと思っています。

今後も「あさひ不登校ねっと」での話し合いを重ね、学校と家庭との連携について検討していくと共に、地域におけるボランティア活動の場作りや親支援の活動を模索していきたいと思っています。

(\*)「あさひ不登校ねっと」は以下の団体で構成し、不登校児支援の取り組みを行なっています。

大阪市立生江青少年会館、大阪市立両国青少年会館、大阪市旭区社会福祉協議会、  
大阪市生江人権協会、大阪市両国人権協会、不登校児の親の会「サークル虹」、  
NPO法人淡路ブラッツ、NPO法人地域生活サポートネットほうぶ

オブザーバー：大阪市旭区役所地域保健福祉課



## 一時保育ボランティア

2006年1月21日(土)、28日(土)、2月4日(土) 13:00~17:00

大阪市立城北市民学習センター

城北市民学習センター主催の音楽療法講座受講者のお子さんをお預かりする一時保育を行いました。2月4日は、ほうぷ主催のシンポジウムの一時保育も兼ねました。専門学校生、大学生、社会人の方々が共に保育の活動に取り組みました。スタッフ、及び、社会人ボランティアに保育士や保育所の看護師が参加し、学生さん達にとっては充実した保育内容になり、社会人の方にとっては学生との協働を楽しんでいただくことができたようです。

### <第1回 1月21日(土) スタジオ&アトリエ>

参加(子ども) 15名、ボランティア 18名(社会人6名、専門学校生12名)  
ほうぷスタッフ2名

楽しく活動しました

- ・表情のない子が、2時間たって笑ってくれたり、おもちゃに興味をもってくれた。子どもたち、みんなが各々楽しそうに遊んでいた。
- ・保育ボランティアの若い人たちと一緒に活動ができたこと。
- ・久しぶりでした。子どもの事、孫の事、感じが同じだった。
- ・私自身、新聞紙で遊んだりすごく楽しめました。
- ・Aちゃんが笑ってくれたので、嬉しかった。
- ・途中から担当していた子どもと仲良くなり、「お姉ちゃん」と呼んでもらい嬉しかった。

### ボランティアのアンケートから(気づいたことや考えたこと&感想・抜粋)

- ・小さい子どもは初めてだったので、ケガをさせないように気をつけた。自分が楽しんでいないと子どもも楽しめない。
- ・腰を低くし子どもの目線になるよう心がけた。文字を読めるようなので、質問があれば、しっかり答えるようにした。
- ・走り回る子だったので、ちょっとケガをするか心配だった。元気な子だったので、外で遊んであげたほうが良かったと思った。
- ・障害をもっていたので、最初会うまで心配でしたが、会ってみると普通の子とあまりかわらなくびっくりした。また、子どもの気持ちになって考えることによってこころをひらいてくれるんだなと思った。
- ・疲れました。子どもと接するのは思ったより体力がいることがわかりました。
- ・学生ボランティアさんたち他、本日の参加者の熱心に触れられてよかったです。自分のライフワークとして子育て支援を広げていきたいと考えています。

### <第2回 1月21日(土) スタジオ・アトリエ>

参加(子ども)8名、ボランティア14名(社会人3名、専門学校生11名)  
ほうぷスタッフ2名

- ・子どもさんが何をしたら喜ぶか?とか、いろいろ分かってきたし、普段は見れないような子どもさんの笑顔とか見れて、すごく嬉しかったし、いろいろなことをやらせていた。

- ・小さい子どもと接する機会もあまりないし、泣いていたのに最後のほうは笑顔も見ることができて楽しかった。
- ・疲れたけど喜ぶコツとかがつかめてきて、声をかけると反応が返ってくるようになって、とても嬉しく、それが楽しかった。

#### ボランティアのアンケートから（気づいたことや考えたこと&感想・抜粋）

- ・途中から泣いてしまったので、泣きやんでからまた泣かないようにしていた。壁にその時あたらないようにとか、何をしたら喜ぶかを気をつけた。
- ・眠たいのに寝れないのか、気分の上下が激しいことがあった時に、少しどうしたらよいのか困った。ほっぺたがぷくぷくでかわいかった。赤ちゃんへの衣服の着せ方などを教えていただけだったので、勉強になった。
- ・難聴の子だったので、近くで話しかけたり後ろからではなく前から声をかけるように意識した。やっぱり、音より目で見るときのほうによく反応していたと思う。
- ・障害をもった子どもとの触れ合いということで少し不安もありました。でも、私の妹が障害を持っているということもあり、すぐに楽しい気持ちで過ごせたと思います。
- ・今回、参加して、子どもと1対1で接することができて楽しかったです。まだ、話をできていないところや、まだよちよち歩きだったので、大変かなと思っていたけど、一緒に楽しく遊ぶことができて、よかったです。初めは泣いていたけど、Rちゃん的笑顔を見ることができて嬉しかったです。いろいろと、知ることもできて楽しい時間でした。
- ・Tくんをはじめ担当して気が付いたことがあります。それは、子どもは絵を描いたり、走ったりすることがとても大好きで、ずっと同じことをしても飽きることなく何時間でも遊ぶことができるということがわかりました。

#### <第3回 2月4日(土) スタジオ・和室>

参加(子ども)22名、ボランティア22名(社会人7名、大学生10名、専門学校生5名)  
ほうぷスタッフ1名

- ・実習で学んだことが生かされ、また、雰囲気や和んでいるので楽しみながらできた。
- ・たくさんの子どもと接することができ、とても楽しかった。泣いている子どもが泣きやんだ時は嬉しかった。
- ・いろいろな子ども達と遊べたから楽しかった。さまざまな子ども達と接することができたから良かった。

#### ボランティアのアンケートから（気づいたことや考えたこと&感想抜粋）

- ・音や光の出るものが好きみたいだったので、歌を歌ってみたりおもちゃで遊んだ。
- ・子どもと一緒に行動を取ることでコミュニケーションできたと思う。私達の表情をよく子どもは見ていることに気づいたので、笑顔は本当に大切だと思った。
- ・ちょっとした音にでもビックリしていた。オムツ買えなどで身体を触らせてもらう時、声かけを忘れずにした。体温調整も難しいようなので服を脱がしたりしてこまめに気をつけた。
- ・細かくて難しい絵が上手に描けていた。集中力がすごくあるようでアンバランスな積み木つくりに一生涯懸命取り組んでいた。

- ・学生の方と一緒に保育させていただくのは初めてで新鮮でした。
- ・3回続けて保育のボランティアをさせていただき、すごくいい経験ができました。また機会があればボランティアしたいです。
- ・普段できない体験で楽しかったです。いつも一時保育慣れた子どもとの接触ばかりなので、お母さんを恋しがって泣くとか新鮮でいい勉強になりました。
- ・短い時間の間でも泣いたり笑ったり集中して遊んだりご機嫌ななめだったり眠たそうだったり、いろんな表情をするんだと思った。また、弱視ということもあってか、おもちゃで遊んでいる時も音をととても楽しんでいるようでシンプルなおもちゃだったけど、上手に遊んでいた。たまに「ママー」と言って抱っこして欲しそうにして、少しでもなついて安心してくれているようなのでうれしかった。
- ・何かをしている時にふと「これがしたい」という思いが生まれ、その思いが急にホワイトボードに絵を描くことであったりおもちゃの車で遊ぶことであったりして、全ての面で豊かな発想力とストーリー性を感じました。いろいろ学べてよかったです。
- ・初めは不安だったけど、赤ちゃんと接していくうちに不安もなくなってきました。とてもいい経験ができました。障害があるからといって特別な保育をする必要はないということも分かりました。

たくさんの感想、ありがとうございました！

### <スタッフの振り返りから>

- ①会場について：スタジオは広かったが、逆に落ち着かない子どもがいたため、シートを敷いたりして、各回の子どもの姿を見て3つほどのコーナーを作った。プライバシーゾーン(おむつ交換場所など)がなく、1回目は車椅子や人などで配慮し、2回目から更衣室を使用させてもらったが、おむつ交換には使い勝手がよくなかった。今後スペース確保の工夫が必要。
- ②役割分担・受付について：2回目に関しては子どもたちの体調が悪く欠席者が多く、急遽近隣の社会人ボランティアのキャンセルをお願いした。1回目は保育者全員が参加している子どもたちが少しでも楽しく過ごせたか、子どもたちの気持ちにより添えたかを振り返る必要があった。2回目以降は子どもたちの姿を受け入れながら全体を見通すことができた。「子どもたちと接する・遊ぶ」が今回のボランティア活動の目的であるが、学生さんにどんな事業も準備・子どもたちの状況に応じた環境づくり、後片付けにいたるまでが役割と感じてもらえればと思った。2回目以降はまず受付で前回の帰宅後の様子を聞いた。「来るのを子どもが楽しみにしています。」など、どの保護者からも好感が得られた。
- ③コミュニケーションカード(保護者への保育内容の報告メモ)：口頭報告だけではなく、学生さんそれぞれに担当した子どものようすを保護者にカードで報告をしてもらった。保護者のカードに関するイメージはよかったようだ。スタッフによる記入内容の書き直しは行なわなかった。文章表現等気になる部分もあったが、否定的な表現は一切なく、一人ひとりのいいところが一生懸命かかれていた。保育者のありのままも保護者に伝えることも必要と感じた。
- ④感想：開始前のタイムスケジュール説明時に「この時間を自分自身が楽しく過ごしてほしい。子ども達と楽しく過ごし、一人ひとりのいいところをいっぱい見つけてほしい。」と付け加えた。3回参加してくれた学生さんが、参加するたびに目が輝き成長していく姿を感じた。私自身がそうであるように、子どもたちに寄り添い、自分にも何かできるそう感じてもらえるよう、若い力に一人の大人として、ほうふの一員として今後も関わっていきたい。

旭区アクションプラン(あさひ あったか まちづくり計画)ができました

皆さんの想いをひとつのカタチにまとめました！(全体のイメージ)

皆さんからいただいた「こんなまちになってほしい」という想いを、何度も話し合いを重ねてプランにまとめました。プランの美明には多くの参加と協力が重要です。一緒に実現していきましょう！

あさひ あったか まちづくり計画 (全体イメージ)

大きな目標：誰もが自分らしく安心してともに暮らせるまちづくりをめざして

(1) 一人ひとりの人権を大切に  
まちづくりをめよう

- ①子どもたち一人ひとりが尊重され、ともに育っていくために、教育や地域のあり方を考えよう。(8ページへ)
- ②就労にいろいろな課題がある人も一緒に働ける場を増やそう(9ページへ)
- ③しょうがいのあることを知ってもらい、本人にちゃんと向き合ってくれらるお店や窓口づくりをすすめていこう(10ページへ)
- ④あらゆる差別のない、ともに生きるまちづくりをすすめていこう(11ページへ)

あったかまち計画をすすめる会(仮)  
カンパ募集中!



(2) 安心・安全がまちづくりをすすめる  
まちづくりをめよう

- ①子どもたちが安心・安全に通わせるまちにしよう(12ページへ)
- ②まちのあちこちに「通じるべ」マークを貼って歩きやすい歩道にしよう(13ページへ)
- ③二箇所パワードで見守り合おう(14ページへ)
- ④もしもの時を考えて、「お守りカード」をひろめよう(15ページへ)
- ⑤高齢になっても安心して暮らしてつづけられるまちをめざそう(16ページへ)
- ⑥「ただしまつり」で、災害時にあわてないようにしよう(17ページへ)

(3) 身近な地域でのつながりづくりをすすめる  
まちづくりをめよう

- ①「地域井戸端会議」であつたかいご近所づくりをひろげよう(18ページへ)
- ②素敵な出会いの輪を「和んで座談会」から広げよう(19ページへ)
- ③子育ての様々な思いを分かちあえる出会いの場をつくらう(20ページへ)
- ④地域づくりに中学・高校生、青年の力を活かそう(21ページへ)
- ⑤しょうがいのある中学・高校生も放課後や休日をいきいきと過ごそう(22ページへ)
- ⑥地域と、もつともつながらよう(23ページへ)
- ⑦高齢者の知恵を活かしている人な世代とつながらう(24ページへ)
- ⑧乳幼児から小・中学生まで大きくつながらう！いきいき子育て支援の輪(25ページへ)
- ⑨「あったかまちづくり基地」を地域の中に増やしていこう(27ページへ)

## ● 昨年度の活動の講演会やシンポジウムを冊子にしました ●

障害児・不登校児に対する支援制度は増えてきたものの、子ども達やその家族の悩みはあまり変わっていないように思われます。子育て支援は、家族支援でもあります。子どもや家族の応援団を多く作っていくことも大切です。

2006 年度、‘地域生活サポートネットほうふ’は、旭区とその近隣地域において、障害児支援と不登校児支援を中心に活動してきました。その活動のひとつであるボランティア研修会やシンポジウムから、3つの講演録を冊子にまとめました。単に知識や技術を伝えるのではなく、生活者の視点に立つことを大切にし、課題をもつ当事者や現場にいる支援者の悩みや迷い、そして、そこからの気づきや想いを伝えることを大切にしています。

この冊子が、みなさまのお役にたてば幸いです。今後もみなさまとともに考え歩み、地域に密着した活動を創り出していきたいと思えます。よろしくお願ひ申し上げます。

